

平成30年度

# 事業報告書

社会福祉法人 田辺市社会福祉事業団

事業報告	社会福祉法人 田辺市社会福祉事業団	補足説明資料等
<p>平成30年度事業報告書</p> <p>社会福祉法人田辺市社会福祉事業団がこの地で高齢者福祉サービスを開始して以降、すでに20年余が経過しました。</p> <p>今年度も、法人運営については、田辺市からの施設管理運営委託料収入をベースに、介護保険サービスの提供報酬を加算して行ってきました。</p> <p>基本収入である田辺市からの施設運営委託費は、長年ほぼ同額で推移しており、一方、介護保険からの報酬は、介護報酬改定が行われるごとに、報酬単価の切り下げされる傾向にあり、平成28年の改定により切り下げられた影響がありました。</p> <p>また、市域に通所介護事業所が多くなったことにより、利用者が分散し、当法人の通所事業所でも、新たなご利用者の獲得が困難となり、結果的に経営環境は厳しくなってきました。このような状況から、運営環境の改善に向けて、平成29年度末に通所介護事業所を閉鎖し、平成30年度から事業を見直しました。</p> <p>事業の切り替えに備え、平成30年4月1日より、養護老人ホームへ通所介護事業従事者を配置転換するとともに、夜勤職員を採用し、また、看護担当職員を増員して体制を固め、特定施設入居者生活介護事業を開始しました。</p> <p>結果として、養護老人ホームに経営資源を集中し、入居者の様態に合わせたサービスを展開できるようになりました。具体的には、業務実施については、時間単位のサービスから、日単位のサービスとなりますので、業務繁忙時間が分散できて、常に要望に応えやすくなりました。</p> <p>今年度も施設ではご利用者の健康長寿を目標にして、定時の起床や就寝と共に、健康体操を朝夕に実施する等を行いました。また、医療的な取り組みとしては、定期検診の実施や嘱託医による往診、歯科医師の訪問診療等、専門職による診察も継続して実施しました。このような施設の関りによって、入居者生活において、身体的に安定した生活を営んでいただくよう努めています。</p> <p>介護保険ご利用者と健常者との、職員の関り度合やサービスの提供度合いに、必然的に格差が生じてきます</p>		<p>主収入は 管理運営委託料 介護保険報酬</p> <p>前年度末で 通所介護・訪問介護事業廃止</p> <p>本年度の変更点 養護老人ホーム千寿荘で 一般型特定施設事業運営開始 夜間支援員の外部委託解消 専任の夜勤者を雇用</p>

<p>ので、平準化を図るため、<u>施設サービスとしての機能訓練時間の延長や、脳トレ訓練の取組を始めました。午後には趣味活動・レクリエーション活動にも注力しています。</u></p> <p>入居者間の経済格差は、過去の生活歴から、多様ですので、外出等での費用負担の出る行事は、十分な気配りをして、実施してきました。</p> <p>入居者への債務返済督促については、当該者と十分確認のうえ、全体把握を行い、個人間の債務については、一括返済し責務解消を成し遂げていただきました。</p> <p>ローン関係の債務については、当年度内までに把握した、4名の方への返済請求通告十数件については、その処理を司法書士事務所に依頼し対処していただきました。結果的には返済責務を時効援用で解消することができます。他1名についても、市役所福祉課の取組により債務の解消が図られています。</p> <p>施設は、開設後20年余が経過し、設備機器や備品に経年劣化現象が多発しています。</p> <p>廊下や共同スペースで、給湯配管からの漏水が多発して、ご利用者の生活に支障が発生していた件は、29年度から田辺市の事業により、部分改修を進めていただいています。</p> <p>外注修理を除き、平成29年度中の改修前には、職員によって行った漏水箇所の修理は（天井内での修理件数）<u>49件あり</u>、狭い天井内の空間内での一件の修理で2~3カ所の止水作業を行うこともありましたが、田辺市が給湯配管の入れ替えを行っていただいた改修後は、劇的に事案が解消され、この給湯配管修理作業がゼロとなり、ありがたく思っています。</p> <p>他にも、給湯ボイラーや冷暖房機のほか、電話機関係、火災報知器関係、受変電装置等、機能劣化又は補修部品が製造中止となり、一度故障が発生すれば長期にわたり機能停止が続く恐れがあります。結果として入居者生活の維持が困難になると懸念されます。</p> <p>建物外壁の補修も推奨期限から2倍以上経過しているところで、ひび割れの発生、ひびからの浸透水、剥離や風船現象が見られる等早急な対策が求められています。</p>	<p>写真 リハビリ体操の充実 脳トレ訓練の実施</p> <p>施設として行事を開催した</p> <p>計5名の方について 債務解消を実現した</p> <p>写真 8/8 主給湯館継手部品破損 写真 8/20 トイレ給水管破損</p> <p>職員による天井内修理は激減した</p> <p>写真 2/26 ケアハウス空調機停止</p> <p>写真 5/7 壁面から雨水浸透</p>
---	---

<p>法人職員の総数は平成30年度初に<u>38名</u>、(臨時6名 嘱託5名 職員27名でした。</p> <p>年度内に21年勤続職員の退職あり、勤続1年以内の臨時職員3名が退職しました。また、年度内に看護職1名嘱託職員1名夜勤者2名を採用し、平成31年3月31日現在で職員総数<u>38名</u>が在籍し、平均勤続年数は約10年です。</p> <p>当年度内では、求められる課題に対し、次のような対処を行いました。</p> <p>法人の定める、基本理念、基本方針を遵守し、目標達成に向けて取り組みを進めました。</p> <p>☆法人運営理念</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. たきの里に「和」を醸成しよう。</li><li>2. 地域に不可欠な施設として存在しよう。</li><li>3. 利用者に喜ばれる良質なサービスを提供しよう。</li></ol> <p>☆基本方針</p> <p>多喜を求める人のために役立つ、「たきの里づくり」の気運を高めて、より良い「和の醸成」を行うとともに、たきの里に縁ある人々の志(こころざし)をうまくまじえ、利用者本位のサービスを質高く提供することをめざします。</p> <p>☆目標(近未来の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○施設利用者の活性化を図る・適切な処遇の計画と展開・結果の分析</li><li>○職員処遇の改善・・・実績の還付・評価・研修育成・適正採用</li><li>○法人の適正運営・定期業務の実施・収支バランス保持・将来動向の見極め</li></ul>	<p>現職員数38名 (療養中2名を含む)</p>
---	-------------------------------

<p>目標達成に向けて、諸事業を計画します。</p> <p>事業計画の骨子</p> <p>1. ご利用者の健康管理と行動力強化</p> <p>近年、ご利用者の様態が多様化し、要介護者の増加や認定度上昇が見られ、意思疎通の困難な難聴者や認知症発症者が多くなっています。</p> <p>転倒による事故報告が多くなっており、骨折事案が発生しています。原因に行動力の低下があり、運動の不足が考えられます。</p> <p>法人では活動的な行動を推奨し、リハビリ体操を強化して、参加を呼びかけしました。</p> <p>集団行動を回避される傾向も見られることから、日常は居室付近の清掃をお願いするなど共に、外出機会を増やす等の取り組みを行って、ホタル見物や花見等、一工夫した行動支援を計画し実施しました。</p> <p>2. サービス体制の強化</p> <p>ご利用者へのサービス向上に取り組むために、職員の研修等を適時に開催し、また外部の研修会に参加すること・同業事業者との情報交換によって、職員の資質を向上させ、もってサービスの質的向上に取り組めます。</p> <p>認知症状を示される方もおられ、旧来とは異なった対処が増えてきています。</p> <p>福祉事業従事者の基礎的資格である社会福祉主事の資格認定に職員を継続的に受講させていて、今年度も1名の受講を終了しています。(主事資格者22名)</p> <p>サービス体制の強化を図り、ご利用者の意向を確認した上でサービスを展開し、あわせて介護報酬の確保に努めました。</p> <p>3. 防災対策</p> <p>紀伊半島沖海域での地震発生が予測されています。ご利用者の安全対策のため、施設設備の適正保守に努め</p>	<p>転倒による骨折入院者発生</p> <p>写真 7/31 流しソーメン</p> <p>写真 10/23 市ノ瀬コスモス花見</p> <p>写真 11/8 外出支援</p>
--	---

るとともに、居室内の家具調度品を整理整頓するように推奨しています。

運動能力の低下しているご利用者が増加しています。緊急時の安全避難を図るため、直近2回の防災訓練では、避難困難者の救出や安全場所への移動を目的とした避難訓練を実施しました。今年度も多くの場面を想定した避難訓練を定期的に行いました。

#### 4. 施設の保守管理

施設開設後20年余経過し、老朽化や耐用年数の超過した設備や備品が増加しています。買換・取替・更新等の対応により、ご利用者の安全確保に取り組んでいます。

給水給湯設備の不具合が発生し、断水等で直接施設ご利用者の生活に影響することが多くありました。今年度も給湯管の漏水防止工事を実施していただき、漏水事故の件数が激減しています。

たきの里は、生活困窮者の支援という大きな使命を担っていることがあります。ご利用者に安定した生活を継続していただくためにも、施設運営を安定させ、想定される災害時の危機に向き合うための備えを、平常時から行っておかなければなりません。

国・市の防災計画や避難計画を理解し、公的施設として避難者の受け入れも課題になります。事業団相互の応援体制や、社会福祉法人間の応援体制を機能させるべく、組織化が進んでいます。

以上、サービスの適正な展開と共に、課題の解消に努めてきています。

次に事業別に事業報告を行います。

平成30年度田辺市高齢者複合福祉施設「たきの里」各施設の事業計画を定め実行しました。

(社会福祉事業)

写真 10/25 夜間想定避難訓練実施

写真 6/21 給湯配管取り替え工事

指定避難所

福祉避難所指定施設

大規模災害対応訓練

近畿事業団組織による訓練参加

県老協主催の研修会に

3名参加 開催件数4回

<p>1. 田辺市社会福祉事業団本部事業について</p> <p>1.適切な事業団運営に取り組みました。</p> <p>運営動向を常に把握して分析を行い、制度改定にも対応して健全な運営の維持に努めました。</p> <p>外部情報は、会議や機関誌等々、あらゆる機会を通じて取得し、事業運営に生かしてきました。</p> <p>2.法人内部の月例報告等を通じて現況を把握し、健全な会計運営に努めました。</p> <p>3.法人情報や施設情報等の公開を行うことにしていましたが、HP による情報公開ができず、課題を残しました。</p> <p>4.施設職員の資質向上にむけた研修会を定期的に行いました。</p> <p>一般研修・・・会計研修・認知症・レクリエーション 人権研修・・・人権研修</p> <p>5.人事管理の適正化を図るため、経歴等の整理や各種台帳の管理に留意してきました。</p> <p>2. 養護老人ホーム「千寿荘」</p> <p>養護老人ホームでは、過去の生活スタイルや人生経歴の異なる入居者に対応し、充足感に満ちた生活を送っていただけるよう、援助・助言・生活支援・見守りを実行してきました。</p> <p>また、明るく開放感の有る施設運営・家庭的な雰囲気作りを心掛け、自宅生活と同じ心境で過ごしてもらい、更に日々の生活では協調性・連帯感をもって集団生活を営んでいただけるように、適切な支援を提供してまいりました。</p> <p>毎月の懇談会、行事毎の実行委員会、意見箱の設置等、入居者との垣根を無くす為に意見の交流を図ってきました。それにより問題意識を入居者と共有し、より一層生活がしやすい施設となるように取り組みました。</p> <p>ここでは、様々な情報提供を行い、施設からの要望事項を伝えています。</p> <p>意見箱には毎月投函があり、懇談会の席上で披露して、共通認識するように計っています。</p>	<p>職員研修会 計 8 回実施 (写真・別表添付)</p> <p>人権 3 回 入居者支援 2 回 職業倫理 1 回 成年後見制度 1 回 感染症予防 1 回</p> <p>定例処遇会議 月 1 回 給食会議 月 1 回 感染症予防会議等々開催</p> <p>定例懇談会開催 議長 互助会会長 司会進行 養護主任 施設長・特定課長・栄養士 介護支援職員</p>
---	---

<p>四季の行事を計画実施しています。</p> <p>花見カラオケ・夕涼み会・ソーメン流し・春秋の遠足・イベント食事・忘年会クリスマス会・初詣・節分会・梅見等々を実施してきました。</p> <p>処遇計画については、意見や要望を聞き作成して同意を取得し、それに基づき必要なサービスを提供してきました。新規入居者等の処遇計画については、月1回の処遇会議において、担当者が処遇計画を作成したものを公開して、職員間で修正調整し、認識を共有しています。</p> <p>毎月入院者が少なからずあり、入院中にも身の回りのサポートを続けています。</p> <p>介護サービスが必要な方には、特定施設入居者生活支援に繋ぎ、介護支援を利用して貰っています。</p> <p>家族交流の機会を増やすために、夕涼み会等開催時には、親族あてに開催案内を送付して、面会機会を増やすように取り組みしました。</p> <p>平成30年度末の在籍者は70名でした。(定員76名)</p> <p>入居者の最高齢者は104才で 最小年齢者は70才です。</p> <p>平均年齢は約85才で、平均在所年数は5.9年(最長22年)となっています。</p> <p>平成30年度中の動静は 新規入居者 5名 (いずれも在宅生活の維持が困難となったため入居となる)</p>	<p>写真 8/18 夕涼み会開催</p> <p>入居者の状況</p>
--	-------------------------------------



<p>退去者は 7名  1名が移籍退去 (紀南病院入院～海南市の病院に転院)  6名が死亡退去 6名の内 家族による葬儀は1名  5名は施設が葬祭実施  内4名は樹木葬として埋葬  内1名は火葬後兄弟が遺骨引き取り</p> <p>特に30年度は短期入所者が多くありました <b>合計400泊</b>  <u>短期入居者が延11名 泊数で372日でした。</u>  また台風等災害が多かった関係で  <u>緊急避難者の受け入れも延11名28泊でした。</u></p> <p>3. ケアハウス「神島」  入居者は定員15名に対し11名の入所で推移してきました。  夫婦部屋2室の入居者がいない状況が長く続いています。施設の有効利用を図るためにも、一工夫が求められる状況があります。</p> <p>近年の利用者像は自立した入居者が減少し、介護サービスを利用される方が多くなっています。「幻覚」を訴える方や「物の無くなり」を訴えられる方も少なくはありません。  個別ニーズから、意見や要望に添って、柔軟に対応することや、少人数である事をメリットとして活かし、介護サービスの利用を図る等で、安定した生活をしていただけてきました。  利用者の健康の維持増進のため、機能訓練参加を呼びかけて積極的に利用していただきました。</p>	<p>写真 9/28・10/4 葬送実施</p> <p>台風等  暴風雨洪水波浪警報発令時</p>
--	---

<p>4. たきの里地域福祉交流センター</p> <p>たきの里と地域住民との交流の場として、積極的に視察研修等を受けいれるとともに、資格取得実習者についても受け入れていきます。また、知的障害者の社会参加と就労の訓練の場となっている、福祉ショップの運営に対しても支援を行ってきました。</p> <p>(公益事業会計)</p> <p>5. 居宅介護支援事業</p> <p>居宅介護支援事業は専従職員1名により運営してきました。</p> <p>事業運営にあたっては、利用者の心身機能、活動(生活)、参加(人生)を理解し、十分なアセスメントを行い、そして、それによって生活障害の改善が図られたかのモニタリングも確実に実施しサービス事業所や行政等との連携、調整を図ってきました。</p> <p>利用者に対しての質の高いサービス提供が行えるよう各種研修にも参加して、資質の向上に努めています。</p> <p>居宅介護支援事業の提供にあたっては、指定基準を遵守し、サービス事業者と連携して、適切にサービスが提供されるよう見守りを行ってきました。</p>	<p>施設訪問交流</p> <p>写真 4/24 新庄公民館</p> <p>写真 5/10 京ちゃんバンド</p> <p>写真 6/17 伊勢ヶ浜部屋来館</p> <p>写真 7/6 わんぱく保育園笹飾り</p> <p>写真 10/30 はまゆう保育園</p> <p>写真 12/6 新庄第2小学校来館</p> <p>教育課程大学生の現場実習受入</p> <p>写真 9/11 学生による弾き語り</p> <p>当入居者互助会から花束贈呈</p> <p>卒園式</p> <p>卒業式</p>
--	---

<p>6. 特定施設入居者生活介護  (養護老人ホーム千寿荘特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護事業)</p> <p>事業枠 44名 事業関係職員 22名</p> <p>事業運営基本計画</p> <p>特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護事業の基本業務として、以下の生活介護支援を実施しました。</p> <p>ア) 利用者ニーズの把握と生活相談、  イ) 介護サービス計画の作成、  ウ) 安否の確認、  エ) 契約による介護サービス事業者のサービス提供体制の確保、</p> <p>利用者が要介護状態、要支援状態となった場合においても、その心身の状況や、置かれている環境等に応じて、利用者やその家族の意向を基に、必要な支援を行っています。</p> <p>サービスの提供に当たっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの、緊密な連携を図り、適切かつ円滑に、総合的な介護サービスが提供されるように努めました。</p> <p>今年度からは、職員による夜勤2人体制で夜間の介護サービスに取り組むことになりました。旧来からの宿直及び夜警担当者についても変わりなく配置し、サービスの充実を図っています。</p>	<p>職員による夜勤業務実施により、日勤者の不足感が出ることもある</p>
--	---------------------------------------